

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】令和2年12月10日(2020.12.10)

【公表番号】特表2020-530882(P2020-530882A)

【公表日】令和2年10月29日(2020.10.29)

【年通号数】公開・登録公報2020-044

【出願番号】特願2020-508462(P2020-508462)

【国際特許分類】

C 22 F 1/053 (2006.01)

C 22 C 21/10 (2006.01)

C 22 F 1/00 (2006.01)

【F I】

C 22 F 1/053

C 22 C 21/10

C 22 F 1/00 6 0 2

C 22 F 1/00 6 2 3

C 22 F 1/00 6 3 0 A

C 22 F 1/00 6 3 0 K

C 22 F 1/00 6 8 1

C 22 F 1/00 6 8 2

C 22 F 1/00 6 8 3

C 22 F 1/00 6 8 5 Z

C 22 F 1/00 6 8 6 B

C 22 F 1/00 6 9 1 A

C 22 F 1/00 6 9 1 B

C 22 F 1/00 6 9 1 C

C 22 F 1/00 6 9 2 A

C 22 F 1/00 6 9 2 B

C 22 F 1/00 6 9 4 B

【手続補正書】

【提出日】令和2年2月14日(2020.2.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0091

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0091】

実施例2

厚さ1.4mmのAA7075アルミニウム合金シートの試料を、5分間の均熱化時間、350 /秒の焼入れ速度での完全な水焼入れ、予備エイジング工程、および自然エイジングを伴う480での溶体化を含む、同一の処理方法に従って調製した。自然エイジング時間と同様に、予備エイジング温度および時間を変化させた。予備エイジング時間は、1時間、4時間、または8時間のいずれかであった。予備エイジング温度は、70または100のいずれかであった。自然エイジング(NA)を、1週間、2週間、3週間、または4週間実行した。試料を、塗料焼付けサイクル(PB)への提供の有無で試験した。塗料焼付けサイクルに供される場合、試料を、2%の予備ひずみの有無で試験した。図3A~Cは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の降伏強度の変化を示す。降伏強度(MPa)

を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図4A～Cは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の伸び強度の変化を示す。伸び強度(MPa)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図5A～Cは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の均一な伸びの変化を示す。均一な伸び(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図6A～Cは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の全伸びの変化を示す。全伸び(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図7A～Dは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の臨界破壊ひずみの変化を示す。図7CおよびDは、試料を塗料焼付けサイクルに供した場合の、予備ひずみの影響を示す。臨界破壊ひずみ(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図8A～Dは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料のひずみ硬化指数(n値)を示す。図8CおよびDは、試料を塗料焼付けサイクルに供した場合の、予備ひずみの影響を示す。臨界破壊ひずみ(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。